

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

第1問

5 10 15 20 25 30

5 重装歩兵を担う市民団を基盤とする都市国家ローマは、ポエニ戦争に勝利し属州を広げたが、市民団を支える中小農民が長期の従軍と属州の安価な穀物流入によって没落した。一方、同盟市戦争でローマ市民権がイタリア半島の全自由民に認められ、ローマ市民団は拡大し公用語のラテン語も広がった。没落した無産市民を私兵化して台頭した実力者の内乱は激化し、有力軍人による三頭政治・カエサルの独裁を経て、オクタウィアヌスが勝利し地中海地域を統一した。その後、市民の第一人者を意味するプリンケプスを称して市民共同体の理念を尊重しつつ、元老院からアウグストゥスの称号を受け

10 、軍事・政治の最高指導者となった。春秋時代から戦国時代にかけて、宗法を基盤とする血縁的な邑の連合体が存在していたが、鉄製農具や牛耕の普及などで農業生産力が向上すると、家族単位の農業が可能となり、氏族共同体の結束は失われて封建制は崩れていった。

15 諸侯は新県を設け開発を進めて小農民を統率し、商業を振興し有能な人材を実力本位で登用するなど富国強兵策を推進し、地域的な領域国家が形成された。周王の権威は失われ各国君主が王を称していたが、諸子百家のうち法家思想を採用した秦が中国を統一すると、光り輝く天の支配者を意味する皇帝を称し諸王の上に君臨した。

20 郡県制による支配が各地に拡大し、篆書に統一された漢字は、長江流域を含む各地での集権的な官僚統治に役立てられた。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

- 問(1) (a)
カジミェシュ大王による中央集権化の後、ドイツ騎士団に対抗するためリトアニアと合併してヤゲウォ朝が成立し隆盛したが、その断絶後に選挙王制となり、中央集権が崩れ貴族の抗争で混乱した。
- 5 (b)
ビスマルクはカトリック教徒を抑圧する文化闘争を進め、聖職者の政治参加抑制、宗教学校への監督強化、中央党の弾圧等を行った。
- 問(2) (a)
10 モンゴル、ダライ=ラマ体制下のチベット、ベグが支配する新疆は、理藩院の間接統治を受け、現地の習慣や宗教が尊重された。
- (b)
英領から独立後マレーシアの成立に加わったが、貿易商などの子孫を主とする中国系住民がマレー人優遇政策に反発し分離独立した。
- 問(3) (a)
15 フランスが北米経営の拠点としてケベック植民地を建設したが、フレンチ=インディアン戦争に敗れパリ条約でイギリスに割譲した。
- (b)
州法で黒人の市民権・投票権は制限され、公共施設も分離された。
- 20 公民権法
ジョンソン

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- | | |
|----|-----------------------|
| 5 | 問 (1) シャープール1世 |
| | 問 (2) ウマイヤ朝、メロヴィング朝 |
| | 問 (3) グスタフ＝アドルフ |
| | 問 (4) トラファルガーの海戦 |
| 5 | 問 (5) 李鴻章 |
| | 問 (6) サン＝ステファノ条約 |
| | 問 (7) ファショダ事件 |
| | 問 (8) ベトナム独立同盟 (ベトミン) |
| | 問 (9) アメリカ・ソ連・イギリス |
| 10 | 問 (10) グロティウス |